

## 石灰とは

〔石灰〕は、土壌の pH を整える土作りや、土壌の改良には欠かせない肥料の1つです。

## 石灰を使う目的

<栄養素の補給>

石灰に含まれるカルシウムは、野菜の生育に欠かせない栄養素です。

カルシウムには、植物の内部を移動しにくい性質があり、内部で補うことができません。その為、石灰を土に混ぜて、土から補給させる必要があります。

<pHの調整>

雨や作物吸収などで、酸性に傾いたままにしておくと、土の状態が悪化します。その為、アルカリ分を多く含む石灰を使用します。

## 他の石灰肥料との違い

消石灰や苦土石灰は、アルカリ性が強く、速やかに土壌を中和しますが、入れ過ぎると土壌がアルカリに傾き過ぎる事があります。また、土が硬くなる為注意が必要です。(じゃがいもが「そうか病」等)

土に馴染ませる必要がある為、1~2週間前からの土づくりの期間が必要です

消石灰・・・土壌消毒の効果が期待できる  
苦土石灰・・・炭酸マグネシウムを含む

## カルシウムの良さ

野菜作りには三大栄養素（チッソ、リン、カリウム）の次にカルシウムが必要です。カキ粉にはカルシウムが豊富に含まれています。

カルシウムは、新しい細胞が作られる成長点や根の先端で特に必要となります。また、カルシウムを十分に吸収した野菜は病気に強くなる特徴があります。

## カルシウムが足りなくなると…

トマト、ピーマン、ナスの尻腐れやキャベツ、白菜の芯腐れ、葉先が枯れる、里芋等の芽つぶれが起こりやすくなります。

## 使い方

農園では・・・

1坪に400~800g程度を使用します。他の肥料と共に、土一面が白くなる程度にカキ粉をまきます。よく混ぜれば完成です。

家庭菜園では・・・

プランター65cm型には、60~100g程度まき、使用します。



## 酸性土壌に生えやすい雑草

スギナ、オオバコ、メヒシバ、カヤツグサ



カキ粉を使って  
土の状態を  
改善しよう!!



カキ粉が良いもの  
(酸性土壌を嫌う)



ナス科(トマト、ピーマン、じゃがいも)、ライラック、ガーベラ、ダリア、ゼラニウム、エンドウ、アサガオ



カキ粉NGなもの  
(酸性土壌を好む)



ブルーベリー、シャクナゲ、サツキ、ツツジ、リンドウ、スズラン、カラー  
※アジサイは酸性土壌で青、アルカリ土壌で赤っぽい花が咲く



## カキ粉のメリット



- ① 主成分は炭酸カルシウム。天然素材に由来する有機石灰肥料です。海のミネラルや微量元素を含んでいます。
- ② 水に流れにくい為、穏やかな効果が期待できます。肥料のやり過ぎによる失敗が少ない為、農業初心者にもお薦めできる肥料です。
- ③ 土壌のpHを中和し、植物が育ちやすい土になります。
- ④ 作物を植える際にまき、土作りと、同時スタートでも施用可能です。



## カキ粉作成工程

地域の飲食店より、廃棄となる牡蠣の殻を分けていただき、洗浄、脱塩、乾燥させ、手作業にて細かく砕き、100%牡蠣の粉、有機石灰を作っています。

この取組みはSDGsの取り組みにもつながっています。

SDGs 14 海の豊かさを守ろう

SDGs 15 森の豊かさを守ろう



製造販売元

IT SUMO

(TEL) 043-310-7970

(住所) 千葉市若葉区貝塚 2-2-3

IT SUMOでは、他に駄菓子屋、缶詰カフェ、古着屋、御用聞きなどの取組みをおこなっております。是非一度遊びに来てください。



カキ粉を  
もっと  
くわしく!!!

